



## かわ あいよ 河合 川が相寄るまち

奈良盆地を流れるたくさんの川は河合町周辺で1つになり、大和川となって流れて行きます。近世には舟運が栄え、大和川は大和と河内を結ぶ大動脈でした。大和川沿いには大塚山古墳群や廣瀬神社、長林寺などが遺され、古代にも大和川は重要な交通路であったことがうかがえます。

### ごがせのわたし かわいはま 御幸瀬ノ渡・川合浜

江戸時代に書かれた『大和志』に「御幸瀬ノ渡 河合村ニ在リ 廣瀬川ヲ平群郡笠目村ニ濟」と記されています。

今の御幸橋より東側に旧廣瀬街道に続く位置に渡し場がありました。この渡しは明治の初めまであり、対岸の笠目との往来に利用されました。また、江戸時代に盛んであった「魚梁船」を使った舟運による荷揚げ場や舟問屋もここにあり、「川合浜」と呼んでいました。

「御幸瀬」の名称の由来について、享保九年の『川合村諸色明細帳』には、天武天皇十三年に天武天皇が廣瀬神社と龍田神社に行幸した時に、大河に橋を渡した旧跡を「行幸ノ瀬」というと記されています。また、元明天皇が廣瀬神社に行幸の折に板橋を架け、廣瀬川（大和川）を渡られたことにちなんで、その橋を「御幸橋」と呼び、後世に橋が無くなり舟で渡すようになると「御幸瀬」と呼ぶようになったとも伝えられています。

舟渡しが無くなった後、新たに大和川に橋が架けられ、「御幸橋」と名付けられました。

